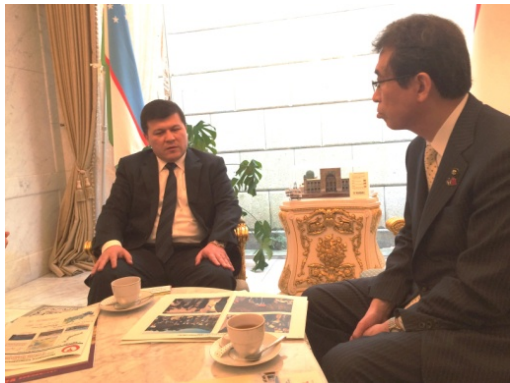


(第2章) オリンピック合宿誘致の取組と政府関係者の来訪

2020 年東京オリンピック・パラリンピックを契機に交流を



舞鶴市では、2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催とその直前合宿誘致を契機にウズベキスタンと新たな交流を始めるため、平成 28 年 2 月には多々見舞鶴市長が駐日ウズベキスタン大使に対して、本市での東京オリンピック選手団直前合宿実施を要望し、大使はスポーツ分野だけでなく、文

化・経済面など様々な分野での交流を希望されました。

それを受けて平成 28 年 4 月にはウズベキスタン大使館からウズベキスタン料理のレシピを伝授いただき、平成 28 年 10 月から市内の全 18 小学校の給食にプロフ、ガロフスープ、サラダのウズベキスタン料理を提供し、ウズベキスタンの食文化への理解を深めました。



平成 28 年 6 月には「日本兵捕虜はシルクロードにオペラハウスを建てた」(角川書店)の著者である日本ウズベキスタン協会 会長の嵩信彦氏が舞鶴市を訪問され、引揚記念館等を見学されました。

駐日ウズベキスタン大使が来訪

平成28年11月にはトゥルスノフ駐日ウズベキスタン大使が本市を訪問されました。東京オリンピック合宿候補施設の舞鶴文化公園体育館を視察され、施設やレスリングマットを確認されました。レスリングマットの感触を確かめ、大使は「合宿施設としての設備は十分に整っている」と発言されました。



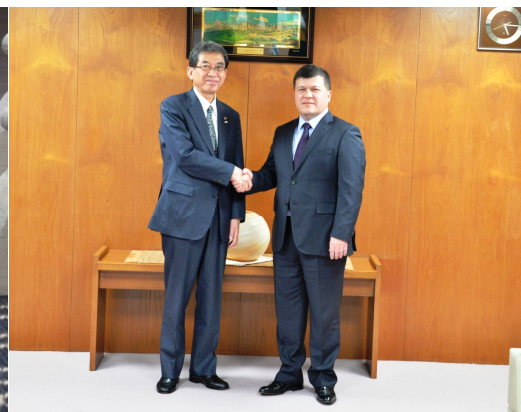
その後、関西電力舞鶴火力発電所などの市内の企業を視察され、市内の小学校を訪問。小学生とともにウズベキスタン料理の給食を食べ交流を深めました。児童からは歓迎の意を込めて歌を披露したほか、大使の似顔絵入りのパネルをプレゼントしました。





大使はその後、引揚記念館を訪問。世界記憶遺産に登録された資料の展示を見学されました。記念館では市内の日星高校、引揚記念館の最寄りの中学校である若浦中学校の生徒と交流を深められました。日星高校の生徒は「今後、タシケントの日本人抑留者資料館ス

ルタノフ館長の孫娘のリソラットさんが在籍する学校との交流をしたい。」と今後の交流の意向を伝えました。また、若浦中学校の生徒からは日本人抑留者がウズベキスタンの子どもに木のおもちゃをプレゼントした史実にちなみ、大使に手作りの木のおもちゃをプレゼントしました。大使は「ウズベクの人々は日本人抑留者を捕虜ではなく、家族・友人だと感じていた。今後様々な形で交流を進めるよう本国に伝えたい。」とおっしゃいました。



ウズベキスタン訪問団の来訪



平成 29 年 8 月には、ウズベキスタンからクルバノフ体育スポーツ大臣、カシモフオリンピック委員会事務総長ら 4 名の訪問団が来訪し、合宿候補施設の舞鶴文化公園体育館を視察。同体育館柔道場で柔道を取り組む子どもたちと交流しました。クルバノフ大臣は「施設にはとても良い印象を持った。緑あふれるきれいな街で、選手たちが練習に集中できると思う。新たな交流が舞鶴から始められるのは喜ばしい」とおっしゃいました。

訪問団はその後、市内でレスリングに取り組んでいる子どもたちやタシケントの日本人抑留者資料館長の孫娘と交流を続けている日星高校の生徒と交流。午後からは南公民館で南舞鶴の市民の皆さんと昼食を一緒にとりながら、交流を深めました。南公民館では南舞鶴スポーツ少年団による神輿に披露やオリンピック予選での健闘とウズベキスタンとのこれからの友好に願いを込めて南舞鶴に位置する倉梯小学校、倉梯第二小学校、三笠小学校、与保呂小学校、青葉中学生の児童・生徒が折った千羽鶴を記念品として贈呈しました。



翌日はウズベキスタンとの交流のきっかけとなった引揚記念館を訪問。展示されている資料を見学されました。記念館では朝来小学校、大浦小学校、若浦中学校の子どもたちやPTAの皆さんと交流されました。子どもたちは「日本についてどのような印象をお持ちですか。」「オリンピック時にはお待ちしておりますので、予選を勝ち抜くために頑張ってください」などの質問をしました。訪問団からは「日本はとても温かい国。日本とは引き揚げ以外にもシルクロードなど歴史的なつながりがある。今回皆さんに応援いただいたので、東京オリンピックでは絶対に金メダルを取ることができると思います。」とおっしゃいました。

その午後には市長を表敬訪問。舞鶴市とウズベキスタンレスリング協会・柔道連盟との間で事前合宿実施に関する覚書を取り交わしました。クルバノフ大臣は「今後はスポーツだけではなく、市民、文化、経済の交流につなげていきたい。」とおっしゃいました。

